



WASEDA ROPE

平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 岩手県盛岡市立松園中学校
- 2 実施日時 : 2016 (平成 28) 年 12 月 13 日 (火)
- 3 対象 : 全校生徒 (282 名)
- 4 派遣パラリンピアン:横沢高德さん(チェアスキー大回転座位 パンクーパーパラリンピック出場)
- 5 授業内容 : 講演

チェアスキー 大回転座位でパンクーパーパラリンピックに出場され、現在は全国の学校などでの講演活動をはじめ、新聞やラジオ、テレビなどで精力的に活動されている横沢高德さんは、この度、なぜ、自分がパラリンピックに出場するようになったのか、また、夢を叶えるためにはどういうことが大切なのかについて、中学校生徒 282 名を対象にお話ししてくださいました。

横沢さんは、もともとモトクロスの選手として全日本選手権大会に入賞するなどの実力者でしたが、ご自身が自宅近くに作ったモトクロスコースのテスト走行中、ジャンプの着地に失敗し、脊椎を損傷して下半身不随となってしまいました。入院中は「できないこと探し」をしていたそうです。

そのような時に、リハビリをされていて両腕や両脚のない人たちに出会い、頑張っている姿を見て「できない、できない」という思いから、「できることからやってみよう」と自分の考えを変えたそうです。

そのような時に、リハビリ担当の医師やスタッフから「スピード好き」の横沢さんにぴったりのスポーツがあると勧められたのが、チェアスキーでした。はじめはあまり気乗りしなかったようですが、岩手のスキー場に行って体験することで、モトクロスと同様な挑戦する気持ちになったそうです。

横沢さんからは、「夢を叶うためには努力することが大切であり、必ず実現できるので、あせるな！あきらめるな！チャンスを待て！」という言葉や「できないこと探しからできること探しへというポジティブな思考の大切さ」、「夢は周りの人の支えによって叶うもの」というメッセージを全校生徒に伝えられました。

また、講演の後には横沢さんをご用意されたチェアスキーや車いすバスケ用の車いす、車いすマラソン用の自転車などを使って、数名の生徒が実技体験を行いました。生徒は乗ったことのない用具に戸惑いながらも、体験を通じてパラリンピックの世界に触れ、大変胸を躍らせていました。

講演を聞いた生徒からは、事後のアンケートにおいて、今までほとんど知ることのなかったパラリンピックに対して興味が湧いたと言った意見や、2018 年の平昌パラリンピックや 2020 東京パラリンピックはテレビや実際の競技会場で観戦しようと思うなど、パラリンピックに対する関心の高まりが見られました。また、横沢さんの話を受けて、自分でも目標を立てて夢に向かって頑張ろうと思った、自分もたくさんの人を支えられるようになりたいと思った、など自身の今後の人生に重ね合わせ、今回の講演で学んだことを活かしていきたいといった旨の感想も大変多くあげられました。

横沢さんの発した「できること探しをする」とのメッセージは多くの生徒の心に響いたようでした。

6 授業の様子



横澤さんはチェアスキーに取り組むようになった経緯から「ポジティブな生き方の大切さ」を熱心にお話しされました



生徒からは多くの質問がありました。また、横澤さんからも生徒にいろいろと質問をしながらお話しをされました



初めて乗るチェアスキー



車いすバスケットのルールを教える横澤さん



車いすマラソン用自転車疾走する生徒



講演後の横澤さんと全校生徒との集合写真